



しらやま

白山小学校だより No.16

令和2年8月17日

◆◆◆ 2学期がスタート！ ◆◆◆



夏休みは、子どもたちが普段できないことを経験する絶好のチャンスです。さまざまな経験を通して成長できるところに夏休みの意義があります。それが今年の夏休みは長く続いた臨時休校の影響で9日間と短く、この限られた時間をどう有意義に使うかが親子共々大きな課題だったかもしれません。今日の子どもたちの明るい笑顔と元気な声からすると、通常とは違う夏休みであっても、子どもたちは規則正しい生活を心がけ、学習や外遊び、読書などを通してかけがえのない思い出をきつと作ってくれたことでしょう。保護者の皆様はじめ地域の方々には子どもたちの生活を見守ってくださり、ありがとうございました。短いとはいえ子どもたちはこの夏休みに大きな病気やけがをすることもなく、無事2学期を迎えることができましたことをうれしく思います。教職員一同、2学期も感染防止に努めながら子どもたちのために日々の職務に取り組んでまいりたいと思います。

今日の始業式では、まず、1学期の終業式で子どもたちに願った「白山小学校のあいうえお」(あいさつ・いのち・うんどう・えがお・おはなし)について尋ねたところ、家庭でも心がけてくれた子が多かったので、安心しました。

そして、学級や学校をさらに楽しい場所にしていくために、ちょっと怖いような題名ですが、「地獄と極楽」の話をしました。

極楽と地獄にある「大きなかま」と「長〜いおはし」

極楽にも地獄にも「大きなかまのうどん」があるんだけど、このうどんを食べるには、「長〜いおはし」をつかうしかないんだ。極楽にいる「利他」の人たちは、長いおはしではほかの人に食べさせてあげるから、みんなで食べられる。地獄にいる「利己」の人たちは、自分だけが食べようとするから、けっきょく食べられないんだ。

『稲盛和夫 新道徳 子ども こころの育て方』(西東社)より

地獄と極楽、それはどこか知らない遠いところにあるのではなく、私たちの心の中にあるのかもしれない。大切なことは、子どもたちにもきつと伝わってくれたことでしょう。

ちなみに今、新型コロナウイルスの感染が再拡大しています。世界も揺さぶっており、社会が抱える貧困や人種差別を悪化させ、大国同士のいがみ合いも激化させています。力を合わせ、世界中の国々が協力して対策を練らなければならないときに、それができないように思えるのは残念なことです。しかし、私たち人類は、これまでの歴史の中で、たくさん大変な状況を乗り越えてきました。今回も、100年に一度の困難な状況と言われていますが、少しでも早くこの危機を乗り越えられるものと信じています。



<暑さに負けず元気に登校>

<時間を守って生活しよう><係や清掃場所も決まりました>